



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

石川会長から堀江会長へ

本工業会は5月18日、上野精養軒で「第8回通常総会」を開催し、石川真一会長の任期満了に伴い、堀江圭馬筆頭副会長を第5代会長に選出しました。総会におけるそれぞれのご挨拶を紹介いたします。

石川真一前会長

本日、筆記具工業会はフレッシュな堀江圭馬ペンてる社長を新会長にお迎えしました。心からお喜び申し上げます。

さて、私が会長に就任しました2007年の5月は、我が国の筆記具産業は絶好調でした。輸出が好調で、国内も高付加価値・高単価品がよく売れていました。しかし、1年半が過ぎて大変な世の中に突入してしまいました。それでも我が産業は他業界ほどのダメージを受けていないことが救いです。

ことし、米国と欧州、インドを視察してきました。いずれも日本の筆記具は大変強く、店頭シェアでも7、8割を占めていました。米国はオフィスサプライが細っていますが、店頭ではトップランクの売り上げを誇っていました。これからは価値を高めて価格を絞る時代になるかもしれません。我々にはこれを乗り切る意気込みと技術的な裏付けがあると思っています。

ところで会長在任中、私は、「書育活動」と「技術交流会」を軸に活動をしてまいりました。これらは初めての試みで議論も多くありましたが、結果的に皆様方のご理解とご支援をいただいで不完全ながら何とか仕事を全うできたのではないかと考えています。これからは堀江新会長の強いリーダーシップを得て、いっそう発展させてもらいたく願っている次第です。

最後ですが、2年間の皆様方の温かいご支援とお引き立てに深く感謝申し上げます。

堀江圭馬新会長

この度、日本筆記具工業会会長に就任しました堀江でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。ところで会長職は、私のような若輩者がお引き受けするには荷が重い重職だと認識しています。しかし、若さこそが強みという考え方もありますので、若さを活かした積極的な運営を行っていきたいと思っています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

さて、石川前会長におかれましては厳しい市場環境の中、技術



交流会の開催、「書育」ホームページの開設、研修会の実施などを通じて、我が国の筆記具産業を活性化させる活動をしていただきました。

私としましては、石川前会長が基礎を築かれた「書育」の事業をさらに発展させ、書くことのすばらしさと楽しさを消費者に広く啓蒙する具体的なアクションをしていきたいと考えています。まずは、「書育アソシエーション」を設立し、総合学習用教材を開発。全国の小学校にこれらが無償提供し、書くことのすばらしさを子ども達に実感してもらいたいと考えています。

日本の筆記具産業を盛り立てるべく全力を尽くしてまいりますので、重ねて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

21年上期委員会活動報告 (平成21年1月1日～7月31日)

<総務 関係>

- 1.26 書育アソシエーション設立打合せ会(20年度 第1回)
 - ・「書育」啓発活動の趣旨説明
 - ・「書育アソシエーション」設立に関する意見交換
- 2.5 書育検討小委員会(20年度 第6回)
 - ・「書育」関連規定について
 - ・各社HPリンクについて
 - ・今後の展開案について
- 3.9 書育アソシエーション設立打合せ会(20年度 第2回)
 - ・「書育」関連研究事例発表
 - ・「書育アソシエーション」設立に関する検討
- 3.12 書育検討小委員会(20年度 第7回)
 - ・「書育」関連規定について
 - ・書育HPテストアップについて
 - ・今後の予定について
- 3.23 総務委員会(20年度 第4回)
 - ・H20年度決算見通しならびにH21年度予算案について
 - ・「書育」啓発活動について
 - ・2009JWIMA 技術交流会について
 - ・役員改選ならびに定款の一部変更について、その他
- 4.9 総務委員会(21年度 第1回)
 - ・平成20年度事業報告書(案)及び収支決算(案)について
 - ・平成21年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - ・役員改選ならびに定款の一部変更について
 - ・21年度 第1回 理事会開催について
 - ・第8回 通常総会について
 - ・その他
- 5.11 書育アソシエーション設立打合せ会(21年度 第1回)
 - ・「書育アソシエーション」組織・運営に関する検討
- 5.27 書育検討小委員会(21年度 第1回)
 - ・部会長交代について
 - ・「書育」総合学習教材の開発について
 - ・「書育アソシエーション」との協同について
- 6.19 書育アソシエーション設立打合せ会(平成21年度 第2回)
 - ・BS11ch「熱中時間」ハガキ熱中人 DVD 視聴
 - ・平成21年度「書育」アクションプランについて
 - ・「書育」総合学習教材の開発について
 - ・(財)文字・活字文化推進機構 訪問報告
- 6.22 総務委員会(平成21年度 第2回)
 - ・第6回ゴルフコンペ開催について
 - ・会員研修会の開催について

- ・優良工場見学会開催について
- ・年末の講演会及び懇親会について
- ・役員・会員動静について
- ・その他(「書育」関連、2009JWIMA 技術交流会報告)

- 7.13 書育アソシエーション設立打合せ会(21年度 第3回)
 - ・書育アソシエーションについての構想の意思統一
 - ・H21年度アクションプラン各実施内容の検討
 - ・「書育」総合学習教材企画案の検討
 - ・かしこ「手紙コンクール」について
- 7.14 書育検討小委員会(21年度 第2回)
 - ・「書育」総合学習教材の開発計画について
 - ・「書育アソシエーション」関係の報告について

<調査研究・広報 関係>

- 1.14 調査研究・広報委員会(20年度 第3回)
 - ・2009JWIMA 技術交流会開催について
 - ・「書育」活動状況について
- 2.17 調査研究・広報委員会(20年度 第4回)
 - ・2009JWIMA 技術交流会出展社説明会について
- 3.17 2009JWIMA 技術交流会出展社説明会 開催
 - ・2009JWIMA 技術交流会 実施要領 説明 開催の趣旨説明、会場ならびに当日の流れ、搬入・搬出、展示装飾、質疑応答)
 - ・出展小間抽選会
 - ・個別相談会(持込み什器・備品の申請、電源使用・使用器具等の申請、展示ツール等オプション申込み)
- 6.17 2009JWIMA 技術交流会 開催

<流通 関係>

- 1.22 お客様相談窓口連絡会(20年度 第4回)
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・不当要求に対する対応に共通化(業界統一)の検討
- 2.26 流通委員会(20年度 第1回)
 - ・2008年カタログ協賛実態調査について
 - ・2009年製品カタログエコマーク表記について
 - ・お客様相談窓口連絡会活動状況報告について
 - ・その他(「書育」啓発活動の経過報告)
- 2.26 お客様相談窓口連絡会(20年度 第

5回)

- ・各社のお客様対応事例について
- ・不当要求に対する対応に共通化(業界統一)の検討まとめ

6.25 お客様相談窓口連絡会(21年度第1回)

- ・各社のお客様対応事例について
- ・H21年度活動テーマについて

<技術国際 関係>

2.12 ボールペン部会(20年度第2回)

- ・ISO規格定期見直し案件について
- ・JIS S 6061(ゲルインク・ボールペン及びレフィル)改正案についての報告
- ・EWIMA技術委員会出張報告
- ・JIS S 6039(油性ボールペン及びレフィル)ならびにJIS S 6054(水性ボールペン及びレフィル)の5年見直し(改正の検討)について

2.19 鉛筆部会(20年度第1回)

- ・JIS S 6006(鉛筆、色鉛筆及びそれらに用いるしん)に関する5年見直しの事前検討

3.3 ボールペン部会(20年度第3回)

- ・ISO規格定期見直し案件の投票について

3.4 マーキングペン部会(20年度第5回)

- ・カテゴリー別マーキングペン業界基準の検討について
- ・EWIMA技術委員会 出張報告
- ・その他(ISO11540:キャップの安全要件見直し、CPSIA:消費者製品安全改善法に関する情報提供)

4.24 技術国際委員会(20年度第2回)

- ・各部会 H20年度下期活動報告ならびにH21年度活動計画について
- ・H20年度国際標準提案事業委員会報告について
- ・その他(EWIMA技術委員会報告、CPSIAに関する情報提供)

4.24 修正液部会(21年度第1回)

- ・JIS S 6055:2007 追補についての説明
- ・2012年のJIS改正に向けての、現行JISの問題点等についての審議
- ・修正テープ規格化の検討
- ・その他

5.29 マーキングペン部会(21年度第1回)

- ・キャップの安全要件改正に対する日本側の意見のまとめ
- ・マーキングペン JISにおける分類分けの検討
- ・その他

5.29 ISO/TC10/WG18 打合せ

- ・国際会議の集合時間・場所、行動予定について
- ・WG18 交流会について
- ・WG18 meeting について

6.10 ISO/TC10/WG18 meeting(箱根 DNP 研修センターにて)

7.3 修正液部会(21年度第2回)

- ・JIS S 6055(事務用修正液)の見直しについて
- ・修正テープ規格化の検討

7.30 ISO/TC10 国内事務局との打合せ(日本規格協会にて)

<JIS改正 関係>

3.3 ゲルインク・ボールペン JIS改正本委員会(20年度第2回)

- ・JIS S 6061(ゲルインク・ボールペン及びレフィル)の改正原案について

3.5 シャープペンシル JIS 消費生活技術専門委員会(20年度第1回)

- ・JIS S 6013(シャープペンシル)改正原案についての審議

3.28 シャープペンシル JIS 消費生活技術専門委員会(20年度第2回)

- ・JIS S 6013(シャープペンシル)改正原案についての審議

<全文協との共催 関係>

2.10 合同知的財産部会

3.13 文具・時計・玩具三団体による知的財産権問題交流会

5.22 合同知的財産部会

7.8 合同知的財産部会

7.9 模倣品対策セミナー(ISO2009)

7.22 CPSIA(米国/消費者製品安全改善法)説明会

(以上)

JWIMA通信はホームページにも掲載しています

日本筆記具工業会

<http://www.jwima.org/top.html>

【主なコンテンツ】 筆記具統計 / JWIMA 通信バックナンバー / TOPICS / 書育 / 最新ニュース

ゲルインキボールペンISO規格が制定・発行されました

国際標準提案事業委員会 西本洋二氏報告

ゲルインキボールペンISO規格が制定・発行されました。

2008年6月に2件のDIS投票が100%承認され、9月にはFDIS投票なしで英語版のみで直接発行する旨決定されました。同年10月にISO/CS(中央事務局)の編集担当者と編集上の意見交換を行い、ISO/CSで着々とProof(校正刷り)発行の作業が進められました。同年12月11日にいよいよISO/TC 10/WG 18 コンビナーにProofが届き、確認を依頼されました。

ISO/PRF27668-1の本文中のFigure 1中のTableの寸法、Table 1中の不等号の書き方、Annex A中の粘度単位を修正し、年末のあわただしい12月23日から24日にかけてISO/CSのJenny Pellaux 女史に送信しました。

これらの作業の結果、2009年1月9日にはproject stage 60.00 (International Standard under publication)に、2009年1月27日にはstage 60.60 (International Standard published)に登録され、2009年2月1日付でFirst editionが無事発行されました。

このプロジェクトへのご支援、ご指導、ご協力をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

ISO/TC 10/WG 18 箱根国際会議が開催されました。

2009年6月4日～12日の日程でISO/TC 10国際会議が箱根の大日本印刷(株)の研修センターDNP 創発の杜で開催されました。この期間中、ISO/TC 10/WG 18会議の前夜6月9日には、JWIMA主催のDinner Partyを開催しました。パーティーには、ISO/TC 10国際会議のほとんどの出席者が参加し、春田事務局長の歓迎のあいさつの後、国際標準化のみならず幅広い会話があちこちで交わされ有意義な交流をもつことができました。



< ISO/TC 10/WG 18 >

6月10日(水)午後1時30分、すばらしい設備の会議場でWG 18の会議が開かれました。当初最大10名と予想していた出席者はISO/TC 10の議長 Professor Bruce A. Harding を

はじめとして16名もの出席をいただき、熱心な議論が交わされました。出席者全員の自己紹介の後審議に入りました。

まずゲルインキボールペンISO規格ISO 27668-1 and -2の制定発行について議長(西本)から報告した後、ISO 1540:1993 (ペンキャップの安全要件)の定期見直し投票の結果を検討しWG 18の結論を「確認」としました。ただ、英国(BSI)とスウェーデン(SIS)は改正の投票をしていたため、その意見を述べてもらいました。BSIのSarah Kelly 女史は、改正されたBS 7272-1:2008の内容をISO 11540の改正に反映させたいとの主張でしたが、塩井委員から、日本は「確認」を投票したことおよびBS規格改正の背景やペンキャップの事故の詳細をもっと知った上で対処したいとの意見を述べ、WG 18としてはBSIに対して、詳細情報を収集してWG 18の専門家に送ることとNew Work Item Proposal(NWIP)をISO/TC 10に対して提出することを推奨しました。次に塩井委員から、日本から提出しているISO 12756:1993(ボールペン用語の定義)とISO 14145-1:1993(水性ボールペン：一般用)の一部修正のNWIPについて、専門家への情報として報告しました。最後にISO規格の定期見直しの結果について検討しました。まず、ボールペン関連の4規格ISO (12757-1, 12757-2, 14145-1, 14145-2 / 油性・水性ボールペンの一般用と公文書用)についてWG 18としては結論を「確認」としましたが、改正投票をしているフランスに対してNWIPを出すようISO/TC 10から促すこととしました。その他の製図関連10規格のうちインク関連2件とISO 12756についてWG 18としては結論を「確認」としましたが、製図機、トレーシングペーパー等の規格は筆記具のWG 18の範囲外であるためISO/TC 10で扱うよう要請しました。



以上の決定内容について伊波委員から口頭で報告し、承認されました。最後に議長から専門家へ出席のお礼を、大日本印刷(株)特に塚田忠夫ISO/TC10国内対策委員長に会議の運営と設備の準備へのお礼を述べ、出席者からはJWIMAのパーティの歓待への謝辞が述べられて閉会しました。

<ISO/TC 10 Plenary meeting>

6月12日(金)午前9時、大会議場でTC 10総会が開催されました。

WG 18からは、西本がISO/TC 10/WG 18の業務、ゲルインキボールペンのNWIPの経過と結果、カバーするISO規格等について報告した後、6月10日のWG 18会議の結論を報告しました。製図機等について新しいSCを設置したらどうかとの意見やISO 27668の発行日について質問がありましたが、変更なしで承認が決議されました。次回のISO/TC 10会議は2010年6月18日(金)から24日(木)にスウェーデン・ストックホルムで開催されることが決議されました。



「第2回技術交流会」開催

出展社15社に拡大 6月17日、共和フォーラムにて

会員同士のビジネス交流を目的に昨年創設した「JWIMA 技術交流会」。第2回目は会場を共和フォーラムに移し、フロアスペースを倍増して6月17日開催しました。

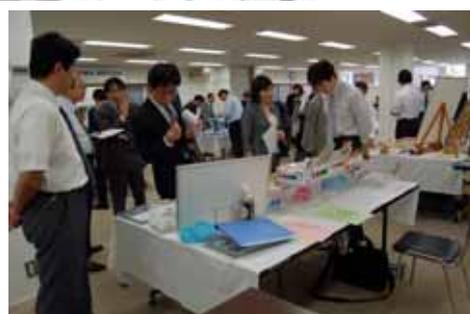
出展社は昨年より5社多い15社、来場者は約200名でした。

堀江会長が開会の挨拶に立ち、「各社とも世界経済の後退で苦しい状況ですが、安易な価格競争に走るのではなく、原点に立ち返って、優れた技術をもって競合との差別化をはかっていくこひとがこういうときほど大事だと思っています。世界トップレベルの部品メーカーが本日は多数この交流会に参加していますので、ここでの交流をきっかけにビジネスチャンスを拡大してくださいようお願い申し上げます」と活発な交流を促進しました。

来場者のアンケートによれば、7割の会員が「検討できるものがあった」とし、9割が「(出展社の)説明に満足した」、また7割が「毎年実施」を望んでいることがわかりました。

フリーアンサーでは、「普段直接関わることのできなかったご担当者様とご挨拶でき、良かったです」「難しいとは思いますが、他業界の出展があるとさらに良いと感じた」など、積極的な意見が多く寄せられました。

まさに業界の期待を集める「交流会」に発展しました。



寸劇で模倣品対策セミナー開催 ISOT2009 全日本文具協会とJWIMA知的財産部会が共催

社団法人全日本文具協会と本工業会は、後を絶たない模倣品に対処するために「模倣品対策セミナー」をISOT会期中の7月9日、開催しました。劇団俳優による寸劇と、行政等から特別解説者を招聘してのセミナーは今年で三回目。今回は「裏のカatalog!」と題して、海外の展示会で自社製品の模倣品が発見されたという想定で、カATALOGの収集から分析、情報収集、企業間連携の強化を通じて摘発につなげるまでをわかりやすく劇仕立てで紹介しました。出演は舞台俳優の中野博文さん、劇団「ACファクトリー」所属の菅真紀さん、劇団「昭和芸能舎」所属の神谷奈々江さんに加えて、寺西化学工業(株)の藤島満年東京支社長が社長役で特別出演くださいました。



開催の挨拶に立った全文協の長谷川会長は「近年、海外における模倣品問題が深刻になっている。今後一層模倣品の取り締まり強化を行っていく必要を痛感する」と挨拶、「さまざまな活動を行っている一環として寸劇による模倣品対策の解説を俳優の方々に演じてもらう」と対策の重要性を強調。閉会の挨拶で本工業会の堀江会長は、「模倣品問題は年々深刻化しており、海外の見本市でも一月のフランクフルトメッセでは暴力事件も起きた。中国では商標権は下火になったが意匠権がそれに取って代わっている。今後も関係省庁と連絡を密にしながら対策を講じたい」と対策の緊急性を訴えました。終了後、模倣品対策クイズを実施、グランプリ受賞者にトロフィーを贈呈しました。

米国消費者製品安全改善法(CPSIA)説明会開催 2010年から対米輸出に新たなハードル

米国で消費者製品安全改善法(Consumer Product Safety Improvement Act(CPSIA))が昨年8月に成立しました。これにより12歳以下を対象とした玩具、文具、アクセサリ、育児用品等全ての子供用製品に含まれる鉛やフタル酸エステルが段階的に規制されることになりました。規制の施行は主に2010年2月1日から。対米輸出品に新たなハードルが設けられます。

この米国の新規制法を学ぼうと全日本文具協会と東京文具工業連盟ならびに本工業会は、財団法人日本文化用品安全試験所を講師に招き「米国消費者製品安全改善法(CPSIA)説明会」を7月22日、東京文具工業健保会館で開催しました。関心の高さを反映して100名近い受講者で会場は埋まりました。

試験所の村田政光理事は「子供用の製品を対米輸出するにはCPSIAに登録された第三者試験機関による試験を経る必要があります。当試験所は我国で唯一の登録試験機関です」と挨拶され、続いて同試験所の宮本化学分析センター長、松村主任から新法に関する説明が加えられました。文具業界において具体的にどの種類の製品がこの規制の対象になっていくのか、試験所と連携を取りながら今後の我が国の対応を探ることになります。



財団法人日本文化用品安全試験所
東京都墨田区東駒形4-22-4
総務部 03-3829-2511
FAX 03-3829-2549
<http://www.mgsi.or.jp/Japanese/Jindex.htm>

「書育」ホームページ開設

皆さんのアクセスをお待ちしています

手で文字を書くことの大切さを広く伝えることを目的に本工業会が推進している「書育」活動。この度ホームページを開設し、様々な書育関連情報を発信していくこととなりましたので、ぜひアクセスしてご理解とご協力をお願い致します。

【アクセスの方法】

1. 日本筆記具工業会HPのメニュー画面を開く。(<http://www.jwima.org/top.html>)
2. メニュー画面にある「書育」のロゴマークをクリックする。(直接入力してアクセスする場合)

<http://www.jwima.org/shoiku/index.html>

3. 「書育」のインデックスが開きます。
 - ・書育とは ... 書育の考え方の紹介
 - ・書育を学ぶ ... 書育に係わる事例の紹介
 - ・書育を楽しむ ... 会員各社HPの書育関連サイトにリンクし、書育を体験してもらうコーナーです

「書育を楽しむ」のリンク先を募集しています。うちにもこういう書育関連のサイトがあるという会員企業は是非事務局にお知らせください。

【「書育」ロゴマークをご活用下さい】

「書育」という言葉の認知度を上げるため、会員各社のご協力をお願いします。

1. 商品の広告宣伝時、書育のロゴマークを隅に掲載し、筆記具業界が「書育」の活動を推奨していることを伝える。
2. 展示会などで「書育」のロゴマークを露出し、考え方を説明する。
3. 各社HPに書育のバナーを貼り付け、「書育」HPとリンクさせる、など。

(注)「書育」の用語及びロゴマークについては、特定商品の販売促進を目的とした使用は禁止しています。



書く力は、育む力

...「書育」ロゴマーク...

【『書育』会員向け情報ページ開設】

日本筆記具工業会HPのメニュー画面に、「『書育』会員向け情報ページ」を設けました。

【アクセス方法】

ユーザーID : shoiku
パスワード : 38916161

<コンテンツ>

- ・「書育」用語及びロゴマーク使用規定：使用する場合の管理・運用について定めています。
- ・「書育」用語及びロゴマーク使用届出書：使用する場合の届出事項
- ・書育ロゴマーク使用基準：ロゴマーク使用時のサイズ・色指定 など

【「書育」21年度の活動について】

日本筆記具工業会は、21年度の「書育」活動として以下の内容を実施していきます。

1. 「書育アソシエーション」の設立準備
現在、大学関係者と協議し、「書育」の学術的基盤形成のためにジャンルを超えた専門家・研究者が交流できる場としての協議会（アソシエーション）設立に向けた準備を進めている。
また、それと並行して「書育」の認知度を上げるための外に向けた活動も実施していく。（企画案検討中）
2. 「書育」総合学習教材の開発
小学校の「総合的な学習の時間」の授業で使ってもらえるような教材を開発し、希望する学校には無償提供を行う。内容的には、大学や小学校の現場の先生にも協力してもらい、手で文字を書くことの効用（育まれる力）を自ら発見し、「書くこと」の大切さや楽しさを学んでもらえるものにする。
3. 書育関連情報の発信
書育HPで「書育」関連の書籍、論文、記事等の紹介や投稿募集、関連HPのリンク先拡大を行い、「書育」の輪を広げていく。また、書育アソシエーションからの情報も発信する。

平成21年度 事業計画書

自平成21年4月1日、至平成22年3月31日

平成21年度においては日本筆記具工業会 定款第4条(事業)に基づき以下の事業を実施する。

- (1) 筆記具とその関連製品の生産統計と貿易統計の調査及び研究
- (2) 筆記具とその関連製品の内外規格の調査研究
- (3) 筆記具とその関連製品の内外知的財産権の調査研究
- (4) 筆記具とその関連製品の安全及び環境問題に関する調査研究
- (5) 筆記具とその関連製品の外国関連団体との交流と情報の交換
- (6) 関係機関及び関係団体との連絡折衝と協調
- (7) その他必要な事業

前各号の事業を企画推進するために設置された各委員会の平成21年度の活動計画

(1) 総務委員会

1. 本工業会の組織活動の基盤である会員の入会促進を図る。
2. 組織の運営とその年間計画の立案を行う。
 - ・ 通常総会 5月開催
 - ・ 会員懇親会 12月開催
 - ・ 理事会 原則として4月、5月(通常総会時)、10月、12月の4回
 - ・ 委員会 原則として3月、9月(但し、必要に応じて、委員長が召集し開催することもある)
3. 会員の相互交流を深める機会としての懇親会(通常総会時、年末講演会時、その他) 優良工場見学会、会員研修会、講習・講演会等の企画・運営を行う。
4. 行政官庁との緊密な連絡と折衝を行う。
 - ・ 会員へのオフィシャル情報提供
5. 会員の福利厚生に資する業務を行う。(慶弔含む)
6. 予算の立案・執行と決算に関する業務の管理をする。
7. 「書育」啓発活動の推進を行う。

(2) 流通委員会

1. 適正な販売と流通秩序に関する調査研究を行う。
 - ・ 価格問題、カタログ等への協賛金問題の調査研究
 - ・ その他の流通に関する問題等については、必要に応じて対応する。
2. お客様相談窓口連絡会
 - ・ お客様相談窓口担当者による情報交換会を定期的で開催する。
 - ・ お客様対応事例の研究を行う。(ex.お客様対応事例集にまとめる。)
 - ・ お客様への商品知識等啓発を行う。

(3) 調査研究・広報委員会

1. 国内の筆記具統計資料の収集と会員への情報提供をする。(生活用品統計、貿易統計等)(月次、年次データ)
2. 海外の筆記具統計資料を会員への情報提供をする。(WIMA、EWIMA等、海外筆記具工業団体との情報交換により統計資料を入手する。)
3. 本工業会独自の調査資料を会員へ情報提供をする。
 - ・ 海外の筆記具市場に関する調査(中国・アメリカの貿易統計等)
4. 会員相互の情報発信手段として「インターネット」の活用充実を図る。
 - ・ 筆記具お役立ち情報等、HP発信情報のメンテナンス
 - ・ HPを流通やユーザーにPRし、本工業会の認知度アップを図る
5. JWIMA通信の活用度を高める。
 - ・ Eメール配信による配布効率の向上
 - ・ タイムリーな発行 ; 年3回(1/1, 6/1, 11/1) +
6. 会員・委員会・部会名簿を作成し関係者に配布する。

(4) 技術・国際委員会

1. 工業標準化に関する活動を行う。
 - 工業標準化に関する情報収集と提供（新 JIS マーク制度等）
 - JIS 原案作成及び改正作業及び 12 条申請の是非についての検討
 - ・ JIS S 6039:2006 油性ボールペン及びレフィル ... 確認（予定）
 - ・ JIS S 6054:2006 水性ボールペン及びレフィル ... 確認（予定）
 - ・ JIS S 6037:2006 マーキングペン ... 確認（予定）
 - ・ その他
 - JNLA（工業標準化法に基づく試験事業者認定制度）生活用品分野（文房具）技術分科会の筆記具に関する事項
2. 国際規格等（ISO・EN・BS・DIN・NF・ASTM・SANS）に関する活動を行う。
 - ・ 国際規格に関する情報収集と提供
 - ・ ISO/TC10/WG18 に係る規格作成及び改正に関する審議及び提案
 - ・ ISO/TC10/WG18 活動支援
 - ・ ISO/TC10 国内対策委員会への参画
3. PL（製造物責任）法に関する調査研究
 - ・ クレーム分析と技術的対応
 - ・ 表示（使用上の注意等）の問題
4. 安全性・環境への配慮に関する調査研究
 - ・ 国内の法令に関する情報収集と提供
 - ・ 国内の環境マークに関する調査研究（エコマーク関連等）
 - ・ 海外の安全・有害物規制に関する情報の収集・提供と日本からの発信
 - REACH 関連、BS 7272-1（キャップの安全要件）、BS 7272-2（尾栓規格）、EN71-9、EN71-3,-9,-10,-11 等
5. 技術及び品質の向上に関する活動
 - ・ 会員の技術向上に関する研修会の実施
 - ・ 品質向上に関する調査研究（試験方法、評価方法及び試験機器、測定機器の統一 等）
6. 知的財産権に関する調査研究
 - ・ 主に、中国模倣品問題に関する調査及び対応
 - 全日本文具協会が主導し、日本筆記具工業会がこれに協力する体勢で活動。
 - 模倣品対策情報の共有化、中国冒認意匠登録（なりすまし出願）ウォッチングの検討、中国制筆協会との共同声明に関する具体的活用方法の PR と今後の対応方法の検討、アジア地区協会の調査研究、ISOT2009 における知的財産活動
 - ・ 知的財産権に関する会員への啓発と情報提供
7. 各部会に関する活動
8. その他

(以上)

お知らせ

シャープペンシルの J I S（JIS S 6013）が改正され、平成 21 年 7 月 20 日付けで発行となりました。購入される場合は、工業会経由で申込みを行っていただければ 10%引きとなります。

（契約により工業会にも 5%の手数料が入りますのでご協力下さい。）

現在、総務委員会では今年の秋冬にかけての工業会行事を企画検討しています。まだ、具体的に案内できる段階まで煮詰まっています

が、おおよそ次のような日程で開催する予定です。（企画が具体化したものからご案内させていただきます）ご期待ください。

10月 3日 第6回会員親睦ゴルフコンペ

10月27日 会員研修会

11月17日 優良工場見学会

12月 2日 年末講演会・懇親会

新規会員加入（平成21年8月1日付）

プラチナ万年筆株式会社

代表取締役社長 中田俊也 様

2008年の出荷・輸入・輸出 =年間=

繊維・生活用品統計（国内向け販売と輸出向け販売を含む）

出 荷	2008 年間		2007 年間		前年変動率	
	数量（千本）	金額（百万円）	数量（千本）	金額（百万円）	数量%	金額%
ボールペン(油性)	492,470	28,841	483,173	28,642	1.9%	0.7%
ボールペン(水性)	897,440	36,543	905,039	37,855	-0.8%	-3.5%
マーキングペン	770,624	37,155	782,695	38,328	-1.5%	-3.1%
シャープペンシル	173,067	15,592	195,672	16,618	-11.6%	-6.2%
鉛筆 =数量単位：グロス=	1,841,486	6,413	2,264,254	7,419	-18.7%	-13.6%
シャープしん	3,085,134	4,862	3,385,995	5,428	-8.9%	-10.4%
修正液	38,158	3,194	40,689	3,493	-6.2%	-8.6%
修正テープ	72,719	6,391	84,034	6,923	-13.5%	-7.7%
クレヨン・パス	111,204	1,809	102,021	1,738	9.0%	4.1%
水彩絵の具	50,585	2,326	54,277	2,424	-6.8%	-4.0%
合計金額		143,126		148,868		-3.9%

日本貿易統計より

輸 出	2008 年間		2007 年間		前年変動率	
	数量（千本）	金額（百万円）	数量（千本）	金額（百万円）	数量%	金額%
ボールペン(油性)	216,414	8,206	216,722	8,190	-0.1%	0.2%
ボールペン(水性)	727,997	32,569	756,084	35,126	-3.7%	-7.3%
マーキングペン	358,160	14,686	323,649	13,981	10.7%	5.0%
シャープペンシル	108,720	6,617	128,106	7,383	-15.1%	-10.4%
万年筆	6,641	1,055	4,705	914	41.1%	15.4%
製図用ペン =単位：本、千円=	14,400	963	45,552	1,983	-68.4%	-51.4%
以上のセット品	1,230	151	680	141	80.9%	7.1%
黒芯鉛筆 =数量単位：グロス=	78,322	239	112,221	218	-30.2%	9.6%
色芯鉛筆 =数量単位：グロス=	76,237	285	25,019	114	204.7%	150.0%
ボールペン用中芯	245,389	4,197	241,345	3,593	1.7%	16.8%
マーキングペン用ペン先・ノックポイント	3,825,056	7,021	4,938,326	7,891	-22.5%	-11.0%
シャープ部品・付属品	179,319	897	178,400	1,062	0.5%	-15.5%
万年筆・ボールペンの部分品	1,756,537	4,459	1,877,851	4,916	-6.5%	-9.3%
シャープしん（鉛筆しん含む）	412,511	2,218	482,356	2,631	-14.5%	-15.7%
クレヨン・パス	107,135	239	139,694	395	-23.3%	-39.5%
合計金額		82,840		86,557		-4.3%

日本貿易統計より

輸 入	2008 年間		2007 年間		前年変動率	
	数量（千本）	金額（百万円）	数量（千本）	金額（百万円）	数量%	金額%
ボールペン	258,822	7,796	264,769	8,675	-2.2%	-10.1%
マーキングペン	175,007	3,326	189,136	3,781	-7.5%	-12.0%
シャープペンシル	45,708	1,475	50,928	1,609	-10.2%	-8.3%
万年筆	3,755	1,463	2,821	1,611	33.1%	-9.2%
製図用ペン =単位：本、千円=	200,250	14,900	23,506	17,768	751.9%	-16.1%
セット品	807	95	1,390	102	-41.9%	-6.9%
黒芯鉛筆 =数量単位：kg =	682,206	592	607,477	602	12.3%	-1.7%
色芯鉛筆 =数量単位：kg =	1,378,751	1,188	1,656,486	1,433	-16.8%	-17.1%
ボールペン用中しん	25,955	246	25,344	239	2.4%	2.9%
ペン先及びノックポイント	183,668	430	83,984	317	118.7%	35.6%
ボールペン又はシャープの部品・付属品	1,481,667	3,147	1,270,855	3,194	16.6%	-1.5%
ペン軸、その他の部分品	147,850	266	181,632	348	-18.6%	-23.6%
しん	468,617	487	533,521	643	-12.2%	-24.3%
パステル・チョーク	1,407,920	708	1,497,418	712	-6.0%	-0.6%
合計金額		21,234		23,284		-8.8%